

1 国語に関する調査

【特長】

- 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることがよくできている。文章を読む際に、登場人物の人物像や登場人物同士の関係性を整理する指導を丁寧に行った成果だと考えられる。
- 表現の効果について、根拠を明確にして考え、選択肢の中から答えを選ぶ問題の正答率が他の問題に比べて高い。

【課題】

- 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して書くことに課題がある。資料から情報を読み取り、必要に応じて活用しながら自分の考えを述べる学習活動を取り入れていく。
- 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方等を確認めて、文章を整えて書くことに課題がある。多くの文章に触れ、書き方の習熟を図り、目的に応じて文章を整えて書く学習に取り組む必要がある。

2 数学に関する調査

【特長】

- 必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかを見る問題の正答率が高い。基本問題に取り組む中で、場合の数を調べ、確率を求める活動を取り入れたことによる成果だと考えられる。
- 事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかを見る問題の正答率が高い。授業の際、生徒がグラフを用いて、解き方を説明する活動を充実させた成果だと考えられる。

【課題】

- 式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。事柄から成り立つ性質を予想したり、その予想が成り立つことを説明したりする活動を取り入れていく必要がある。
- 相対度数の意味を理解しているかどうかを見る問題の正答率が低い。ある階級の度数の総度数に対する割合を求めてデータの特徴を読み取る活動を通して、相対度数の必要性和意味を理解できるようにしたい。

3 理科に関する調査

【特長】

- 気圧を利用している身近な事象について選択する問題で正答率が高い。気圧の知識が概念として身に付いていると考えられる。

【課題】

- 身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定することに課題がある。身の回りの事象から生じた疑問や問題が解決可能かどうかに着目し、科学的な探究の課題を自分の言葉で表現する学習場面を設定していく必要がある。

4 生徒質問紙の結果より

【特長】

- ・「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という質問に肯定的な回答をした生徒が多い。学校・地域でのつながりや、安心してサポートを受けられる環境を引き続き充実させたい。
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する等の学習活動に取り組んでいると回答している生徒の割合が高い。自分の考えがうまく伝わるよう、発表の構成等を工夫して取り組んでいる成果だと考えられる。

【課題】

- ・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問に肯定的な回答をした生徒の割合は比較的多いが、相談できずにいる生徒も一定数いる。教育相談体制の一層の充実を図りたい。
- ・「授業でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度活用しているか」という質問に「毎日」と回答した生徒の割合が少ないことから、今後授業や特別活動等の様々な場面においてPC・タブレット端末などのICT機器を使う機会を増やし、学習の質を向上させていきたい。

授業・学校生活の充実に向けた取組

- ・学校教育活動の中で、生徒一人一人の頑張り、良い面を積極的に認め、評価し、生徒に伝えることで、生徒自身が自分の「強み」を自覚できるようにする。
- ・生徒が自分を肯定的に捉えられるように、教職員と生徒の信頼関係を一層深められるよう努める。
- ・生徒が社会性を身に付けるため、地域の活動等に参加する機会を積極的に提供したり、学校において地域の人たちと共に取り組める場を設定したりすることで、多くの人と触れ合い、思いやりの心や達成感、自己有用感をもてるよう努める。
- ・必要な情報を得るために複数の資料を読み比べたり、条件に合わせて必要な情報を書き抜いたりする学習に取り組み、ICT機器を活用しながら情報活用能力を育成していく。

ご家庭で取り組んでいただきたいこと・地域の方に知っておいていただきたいこと

- ・生徒が学習内容を理解し、定着させるには、家庭においても毎日授業の復習に取り組む等、家庭学習の習慣化が大切です。ご家庭でもお声掛けをお願いします。
- ・生徒の自己肯定感や主体性が育まれるよう、引き続き、ご家庭でも子どもたちを温かく見守り、認め、褒めていただければと思います。
- ・「地域の大人に、授業や放課後等で勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある」と回答した生徒が多いことから、引き続き、子どもたちが未来のかけがえのない地域人材の一員となるよう、声を掛け励ましていただきますようお願いいたします。